

2023年7月 夏号



訪問診療通信

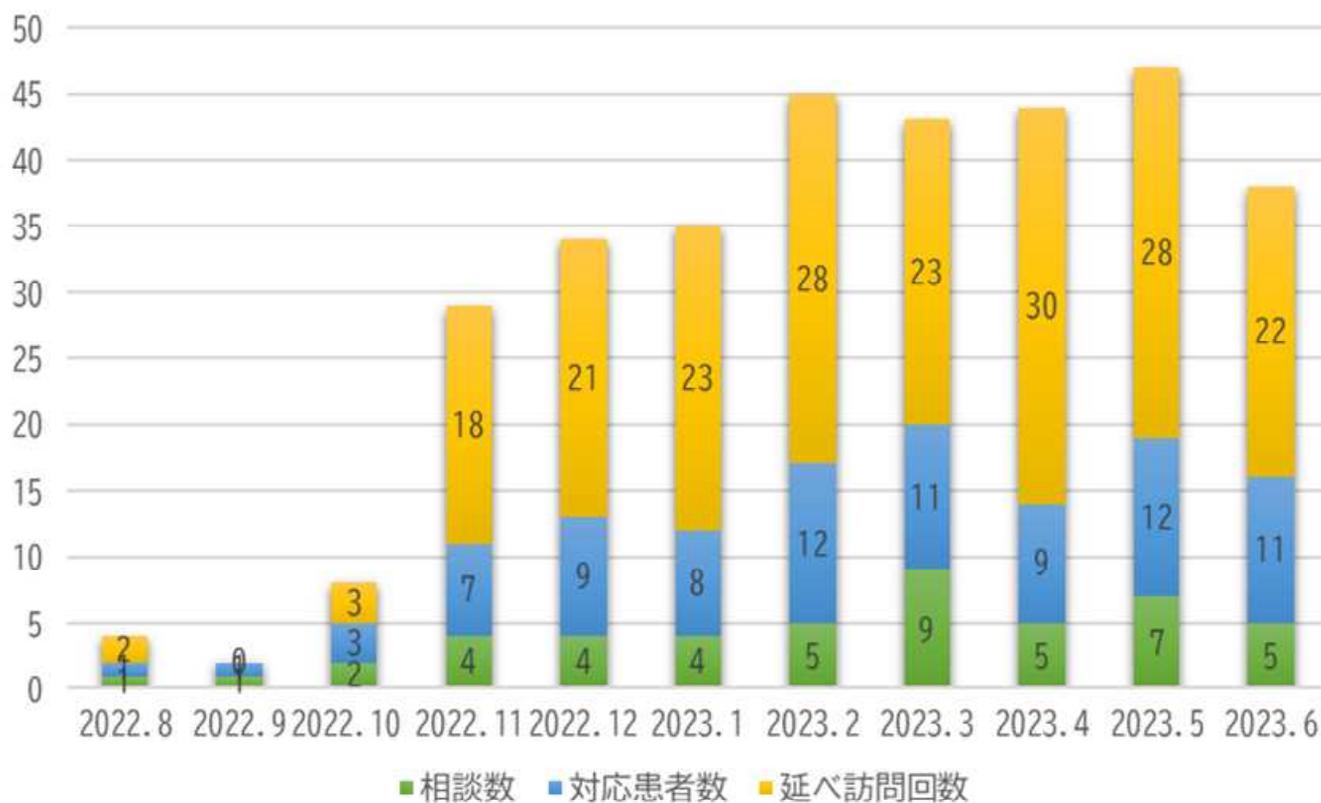
佐野厚生総合病院

早いもので1年の半分が過ぎました。じめじめと暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。訪問診療をする中で、花の季節から緑の季節へと移ろいました。訪問に出るために日焼け止めクリームと汗拭き用タオル、氷を多めの冷たい飲み物を入れた水筒が欠かせなくなりました。熱中症に気を付けて、元気に夏をのり越えられるようにしたいです。

【これまでの訪問診療科の実績】

皆様からのご理解・ご協力のもと、2022年8月から約10か月の間訪問診療を継続することができております。この10か月間の活動につきまして報告いたします。

訪問診療科対応実績

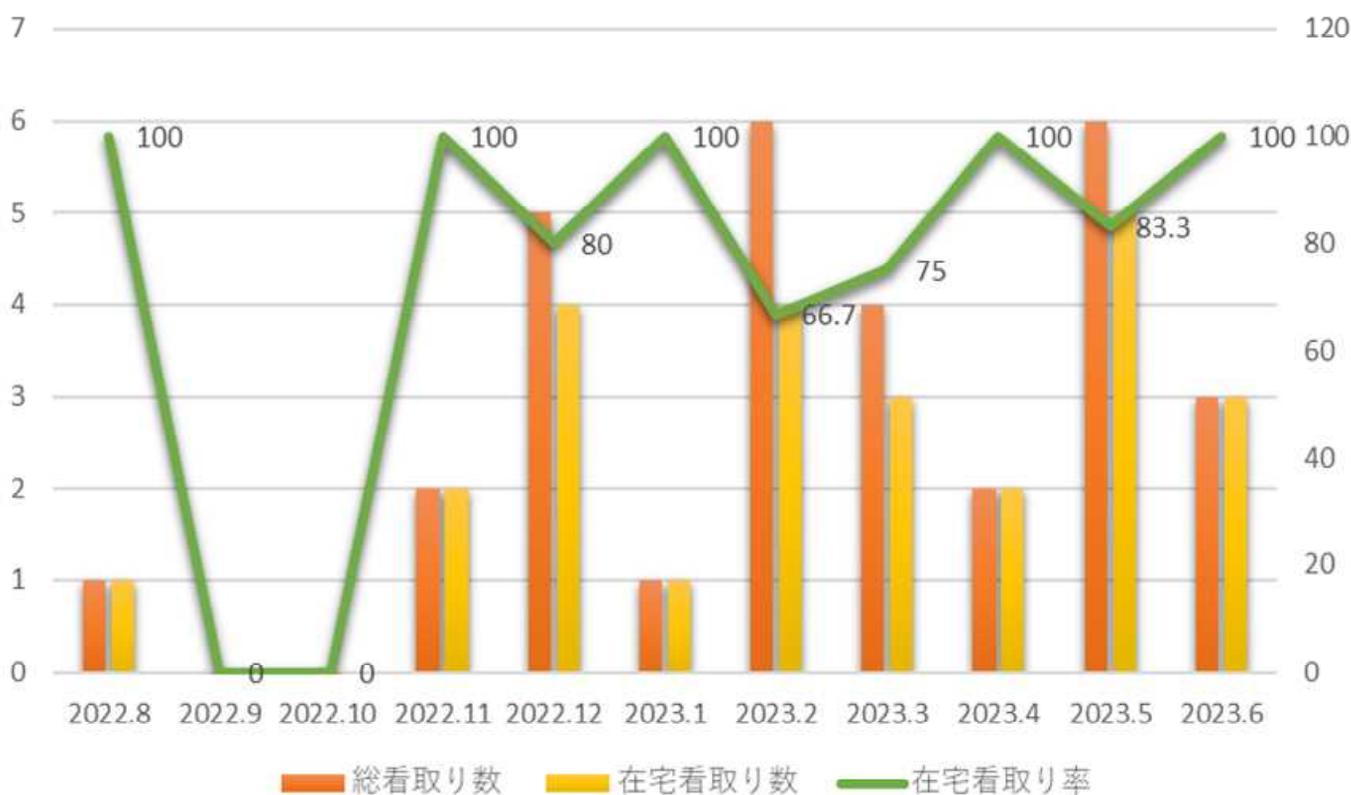


訪問診療科の対応患者さんは、佐野市内在住の当院かかりつけの方とさせていただいております。

当院医師からの相談件数は月平均4.3件となっています。訪問診療科が対応している患者さんの人数は、月平均7.6人、月平均延べ訪問回数は18回となっています。

訪問診療科で対応する疾患は、圧倒的に終末期がんが多いです。在宅で痛みのコントロールをしたり、家にいるからこそ自分らしく過ごしたいという意向に沿ったケアを訪問看護師やケアマネジャーとともに考えていきます。訪問回数は病状や処置の内容、ご家族のご不安等に合わせて、適宜ご相談させていただいております。その他、認知症や難病等病気と共に暮らし続ける中で、通院が難しくなった患者さんに対応しています。

看取り実績



訪問診療科では、稼働から10か月の間に、在宅・入院を含め30名の患者さんをお看取りさせていただきました。その内、25名の患者さんは最期の時をご自宅で過ごし、家族に見守られながら旅立つことができました。厚生労働省の調査で、令和3年1月～12月の佐野市の自宅死の割合は18.2%とされています。当訪問診療科の在宅看取り率は83.3%にのびります。

最期まで自宅で過ごされた患者さんの中には、亡くなる前日までお酒を楽しまれたり、焼き肉パーティーをしたりする患者さんもいらっしゃいました。

当院の訪問診療科の活動が、佐野市の住民の生き方や暮らし方、医療機関の皆様の負担軽減に少しでもお役に立てていますと幸いです。

コラム～お家で過ごすために～

熱中症に気を付けましょう

厚生労働省、熱中症予防のための情報・資料サイトによると、「熱中症とは**高温多湿な環境に長時間**いることで、**体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態**」と書かれています。**エアコンの使用やカーテンの利用、冷たいタオルや吸湿・速乾性のある衣類の使用、こまめな水分・塩分の補給**をして、気を付けていきましょう。

●熱中症警戒アラート●
熱中症の危険性が極めて高くなることが予測された場合に気象庁と環境省が共同で発表します。アラートが出た日は外出を控える、エアコンを使用する等対策して下さい。

夏本番となってきました。病院での仕事の際はエアコンの効いた環境で、訪問の時には外と車の中の暑い環境の行き来となります。1日のうちに暑いと涼しいを繰り返すと体が疲れます。帰宅後の温かいお風呂でリセットするのが幸せです。

